

令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 5	公益目的事業 16
主査名	谷口綾子 筑波大学教授	
研究テーマ	自動運転システムの社会的受容に向けた学際研究と地域の物語構築	
<p>近年、クルマの自動化が進められており、自動運転車(AVs)の社会的実装が現実味を帯びている。AVsは、人間の宿命である「移動」とそのための「社会インフラ」のみならず、人々の「モラル」「世界観」をも大きく変える可能性を秘めている。これに対応した技術開発や法制度等の検討は進められているものの社会的受容についての議論は、その重要性が認識され始めたに過ぎない。そこで本研究は、2020年度に引き続き、AVsの社会的受容に向けた課題として以下の3つを目的とした調査研究を進める。</p> <p>(1) 交通工学・心理学・倫理学・メディア学・民俗学・法歴史学等の学問分野の切り口から定量的／定性的に把握</p> <p>(2) 19世紀末に導入されたかつての新交通モード「クルマ」(一般的な手動運転車をクルマと記述する)の社会的受容を民俗学・歴史社会学の観点で辿ることで把握</p> <p>(3) (1)(2)を踏まえて、AVsバスの定時運行、実証実験を行っている地域を研究フィールドとして選定し、協力を依頼し、AVs利用者や地域住民など多様なステークホルダーが、AVsのリスクを正しく理解し、受容するか否かを判断するための広報資料を広告の専門家らとともに構築</p> <p>なお、研究フィールドとしては、東京大学柏キャンパスのAVs実験、茨城県境町における自動運転バス、等の先進事例を想定している。これらにより、2022年度以降、(3)の研究フィールド周辺地域に広報資料を周知・配布するとともにイベント等を開催し、その効果を計測することを目指す。上記より、AVsを社会にソフトランディングさせる一助とすることが本研究の将来的な目標である。</p> <p>研究の方法として、(1)については、研究代表者・メンバーの得意分野の研究方法に則って、アンケート調査、インタビュー調査、文献調査、新聞分析などの定量・定性両面からの調査分析を行う。</p> <p>(2)については、自動車普及率や道路整備率などの統計データと共に、新聞アーカイブス、NHK映像アーカイブス、文献調査などの質的データを組み合わせた調査分析を行う。</p> <p>(3)については、研究フィールドとした地域住民、行政、商店主、交通事業者など様々なステークホルダーを対象としたインタビュー調査により、多様な視点で構成されるストーリーを収集する。そのストーリーと地域の歴史や将来展望を含め「自動運転バス実証実験が地域に与えたインパクト」という観点を物語形式で取りまとめる、この地域の物語は2022年度以降に、地域で共有する予定である。さらに、この「地域の物語」を共有する時期、メディアの種類等について今後2-3年を見据えた広報戦略を行政と専門家を交えて検討する。</p>		